

徳島県立農林水産総合技術支援センター
平成30年度第2回外部評価委員会会議録

日時：平成31年1月10日 午前10時から正午まで
場所：徳島県立農林水産総合技術支援センター 大会議室

1 平成29年度外部評価結果の反映状況報告

試験研究業務及び総合評価の平成29年度の評価に基づく反映状況を報告。

【質疑】

委員： れんこんの「阿波白秀」について、「備中」の補完品種としての意味について、もう少し教えていただきたい。

回答： 備中は晩生品種であり、9月以降に収穫時期を迎えるのに対し、阿波白秀は早生品種であり、8月上旬に肥大が完了する。備中では9月以降まで肥大が進むため、8月の台風により収量が低下するが、阿波白秀は8月に台風が来ても、すでに肥大が完了しており、収量の低減が少ない。今後の地球温暖化、台風の上陸等に対応できる品種とすることで、農家のリスク軽減に繋がる品種と考えている。徳島県の中心品種は備中であるが、そのうちの何割かを阿波白秀にして、リスク低減を図るという意味である。

委員： トマトについて、生育状況の把握は、具体的には何を指標とするのか。

回答： 現状ではハウス内の温度、湿度、炭酸ガス濃度を測定し、トマトの生長が適正かどうかの判断をしているが、測れるならトマト自体を測るのが一番良く分かる。そこで、カメラとかビデオで撮影した画像をデータ化し、どの時期にどういう反応をしたのかというのを解析する、植物の生体情報を直に見える化するなどの方法を進めたい。光合成量を測るのは大学等で実施されているが、非常にコストがかかるので成長状態、茎の生長量をデータ化したいと考えている。

2 試験研究業務の評価

1) 評価の視点・評価表について

評価の視点・評価表について説明。

2) 各研究課の取組みについて

経営研究課，農産園芸研究課，資源環境研究課，畜産研究課，水産研究課の取組み内容を説明。

【質疑】

経営研究課

委員： ミシマサイコについて、現在はどれくらいの面積で栽培されているのか。収益性を分析するためにはある程度の面積が必要と考える。

回答： ミシマサイコの栽培面積は美馬市の薬草組合48戸のうち24戸の2.3ha，阿南市では20戸から30戸ほど，美馬市では他にも数戸あるが、面積等の

把握はできていない。

委員： ミシマサイコについて、農薬登録の状況を教えてほしい。

回答： ミシマサイコについては、野菜類として登録されている殺菌剤、殺虫剤、除草剤が使えるほか、ミシマサイコとして登録されている除草剤、殺菌剤、殺虫剤がある。まだまだ足りない状況であるが、製薬企業が農薬メーカーに働きかけて登録を取っている状況と聞いている。

農産園芸研究課

委員： スマート化に対して小規模の施設園芸とある程度の大規模型との二つの方向性があると思うが、センターではどのように考えているか。

回答： 徳島県のほとんどの施設園芸農家は中小規模、大きくても60アールくらいの中小規模であるため、中小規模に対応できるスマート技術が徳島県の試験研究をやっていく役割と考えている。中小規模では高価な環境制御機器の導入は難しいため、低コストでスマート農業化ができるような機械器具のシステムを本県の試験研究でアイデアを駆使して開発したいと考えている。

委員： レンコンについて、徳島県の生産量は全国では何位なのか。

回答： 全国では2位で、1位の茨城県とは倍くらいの差がある。茨城県の品種はダルマ系といい、丸いぼこぼこしたもので、早生系で早くから取れる。徳島県のレンコンは備中系で、丸くなく、平べったい長いもので、茨城県より高価に販売されている。業務筋で高く評価され、高く販売されている。新品種「阿波白秀」は徳島県の備中系の形状で、収穫期が早く、台風被害を受けにくい早生品種ということで開発したもの。

委員： 味に差はあるか。

回答： 味の差は特にない。

資源環境研究課

委員： 6次産業化の技術の開発を是非進めていただきたいが、それを販売に持っていくのが重要と考える。作り上げたものをいかに広報するかについて、どのように考えているか。

回答： 商品開発は企業が中心となって進めており、それに私たちの研究がどの程度活かせるかということ、現在のところ中心に考えている。

畜産研究課

委員： LEDの光源は企業から提供されているのか。または、購入しているのか。どのメーカーのLEDを使うかによって、後の結果が異なる可能性があると思う。

回答： 民間企業と共同開発しており、光源のLEDは企業に提供いただいている。

委員： タデ藍活用飼料による美味しい高品質鶏肉生産技術の開発について、美味しさとは例えば、やわらかいとか、臭みが無いとかあると思うが、どのような目標にしているのか。

回答： タデ藍活用飼料について、試行的な研究ではかなりおいしいという結果が出ており、徳島大学に分析をお願いし、複数の指標をレーダーチャートで表して、評価している。

委員： 乳用牛の最適な生産サイクルの検討について、具体的にはどのようなものか。

回答： 乳量曲線は現状では産後急上昇し、落ち方も結構早くなっている。乳牛からしたら分娩後に身を削ってお乳を出すという感じになっており、病気も出やすい。それをもっとゆるやかに乳量曲線を立ち上げて母体に過度な負荷なくお乳を長く絞る感じにしていく方が良いのではということで、全国的に調査されており、産地ごとの平準化の乳量曲線が調べられている。今私どもは農家で、それぞれの農家の牛がどの乳量曲線を描くかと、これに対する診療費がどれくらいかかったかを調査している。

水産研究課

委員： 魚類養殖の推進について、具体的な魚種は。

回答： 具体的な魚種は決まっていないが、愛媛県ではスマとかクエとかハタとか、香川県ではブリ、ハマチとか出てきている。徳島県でもスダチブリも出てきており、それ以外の魚種を考えたい。

3 総合評価

1) 評価の視点・評価表について
評価の視点・評価表について説明。

2) 総合評価の取組みについて
「6次産業化人材を含む担い手の育成について」説明。

【質疑】

委員： インターンシップの表を見ると関東からの参加が非常に多いが、何か工夫を行っているか。

回答： 関東を中心に、農学部がある大学を訪問するなどにより、インターンシップ事業を紹介している。

委員： 農業チューター制度について、実際に指導農業士で指導者をされている方は何名おられるか。

回答： 県内には指導農業士が約80名おられ、その中から各地域ごとに新規就農者の方が必要とされる場合にチューターをお願いしている。指導農業士に限った人数は集計できていないが、全体では25名程度である。